本気に　元気に　根気よく

さんびょう
三錨Ⅵ

四日市市立富洲原小学校
学　校　だ　よ　り
No. 4
平成29年　5月31日

梅雨入りを間近に控え、晴れ間が貴重な季節となってきました。天気が良い休み時間は、相変わらずたくさんの子が外に出て活動し、汗だくになって教室へ戻る子もいます。6月12日はプール開き。でもちょうど梅雨入りの時期となります。降るときは降って、晴れるときはカラッと晴れる。メリハリの利いた梅雨になるといいのですが。

◇　第１回学校運営協議会

５月２９日（月）、本年度第１回の学校運営協議会（コミュニティスクール）の会議が行われました。本校は、昨年度から四日市版コミュニティスクールの指定を受け、今年度で２年目となります。まず、１３名の学校運営協議会委員の皆様に、四日市市教育委員会からの委嘱状をお渡ししました。その後、委員長・副委員長の選出、コミュニティスクールの説明、学校の現状についての報告と続き、平成２９年度富洲原小学校「学校づくりビジョン」の説明をさせていただきました。校長からは学校教育目標等について、各主任・指導部長・委員長から重点推進内容について説明をさせていただき、委員の皆様から承認をいただきました。

NO	お名前	所属等
1	藤田　信男　様	富洲原地区連合自治会長　富田一色地区連合自治会長
2	早川　四郎　様	天ヵ須賀地区連合自治会長　地区自主防災隊隊長
3	坂本　寛　様	松原地区連合自治会長　地区社会福祉協議会会長
4	西岡　正行　様	富洲原地区民生委員児童委員協議会会長
5	清水　智裕　様	富洲原地区市民センター館長
6	平野　貢　様	学識経験者（元市内小学校長）
7	野崎　美喜　様	主任児童委員
8	北浦　優子　様	北部児童館児童厚生員
9	◎野村　幸廣　様	平成27年度　本校ＰＴＡ会長（保護者代表）
10	○伊後　康司　様	平成28年度　本校ＰＴＡ会長（保護者代表）
11	伊藤　正樹　様	平成29年度　本校ＰＴＡ会長（保護者代表）
12	新田　英生　様	四日市市立富洲原中学校校長
13	曽我　千智　様	四日市市立富洲原幼稚園園長

◎委員長　○副委員長

その後は、各委員のみなさんとの意見交換。校長からは、「ざっくばらん・和気あいあい」の雰囲気の中、外の目、様々な立場から自由にご意見・ご提言をお聞かせくださいとお願いしました。その中から主なものを紹介します。

・富洲原小学校コミュニティスクールの愛称のようなものを考えてはどうか。
・昨年度もお話したが、他地区の人から、「富洲原小ってすごいね。ええね。」という話がたくさん聞けて、うれしかった。
・講堂での「雨の日コンサート」や、中学生・保育園・幼稚園児と一緒に歌を歌う「音楽集会」など、とても素敵なことだと思う。
・コミュニティスクールがうまくいっている学校は、地域が持っている特性をうまく生かしている。富洲原も、歴史、運河、祭り、漁師町などいろいろ特色がある。その生かし方もこの会議で考えていけるとよい。
・低学年の子が、「三つの錨って何かな？」、「本気、元気、根気」のことかなと話していた。おそらく富洲原三地区のことだろうが、その考えも素敵だなと思った。
・三地区の祭りも、子ども達が少なくなってさみしくなった。祭りについての授業を行い、参加を促すこともしてもらえるとよい。
・地域学習に取り組んでもらい、「富洲原にはこんないい所がたくさんあるんや。これからも富洲原に住み続けたいな。」と思う子を増やしてもらえるといい。
・今、学校で行っている活動の中に、どう地域を取り込んでいくか考えていきたい。
・「昔の暮らしを聞く会」、「昔遊びの会」など、地域のみなさんに、ゲストティチャートして来校していただくことも考えていきたい。
・コミュニティスクールの取組を、小・中学校が連携・協働してやっていくのも一つの考え方ではないか。

本当に、ざっくばらんに様々なご意見・ご提言をいただきました。できそうなことから少しずつ取り組んでいきたいと思います。

委嘱状の交付

意見交換

◇　観劇会

５月２３日（火）、劇団うりんこによる「夜明けの落語」の観劇会がありました。午前（１・２・５年）午後（３・４・６年）に分かれて、体育館で鑑賞しました。劇の原作は、児童文学「夜明けの落語」（みうら　かれん作）です。

主人公は小学校４年生の暁音（あきね）。人前で話すのが大の苦手です。日直の仕事として１週間の最後に５分間のスピーチをしなければならないのが、とても嫌でした。それを知った日直のペアの三島君が、スピーチで落語を披露して時間切れとなり、暁音はスピーチをしなくてすむようになりました。これがきっかけで暁音は落語に興味をもつようになり、三島君と一緒に落語の勉強を始めますが、なかなか上達しません。でも、最後は友達や家族に支えられ、スピーチ当日は見事に「じゅげむ」の落語を披露することができました。

ユーモアたっぷりで、たくさんの笑いがあり、最後にはちょっぴりほろっとさせられ、優しさや勇気がもらえた素敵な劇でした。子ども達は、テレビやビデオなど、映像に触れる機会は多いですが、生の舞台に触れる機会はめったにないと思います。小学校を舞台にした劇なので、子ども達にとっても身近でした。人前で話すのが苦手という部分も共感する子が多かったのではないでしょうか。最後に暁音が生き生きと「じゅげむ」を演じていた時には、会場から大きな拍手が湧きおこりました。